

特定非営利活動法人 里山ルネサンス総合研究所 設立趣旨書

1. 趣旨

里山は私達人間が生活する人里と、野生動物が生きる奥山との間に存在する地域です。里山では人は山や森の恵みを受けつつ農業耕作を行ない、野生動物は自らが害獣となってしまう人間達の生活エリアとの緩衝地帯として積極的には入り込まないことで、それぞれが共存しながら上手に生きてきました。

しかし昨今の気象変化と人間による開発行為によって野生動物の住む奥山地域での生息エリアと食糧は激減し、野生動物が里山と人里エリアまで出没することが急増しました。その結果、野生動物と人間の共存のバランスは崩れ、人間は野生動物に農作物を食い荒らされ、野生動物は害獣として人間に駆除されることが日常化しています。

また現代社会では、都市部に人口や就労機会が集中し、農山村地域での雇用が減少し続けています。農林業従事者の高齢化と減少に伴って国内における農作物の生産量と国産木材の使用量は減少し、耕作放棄地も増加し、私達の食生活は海外からの輸入に依存する構造になっています。

海外から輸入される農産物は価格が安く、そのことが更なる農業従事者の減少に拍車をかけるという悪循環を起こしています。海外からの輸入作物の食の安全性に関する危険性も指摘されていますが、国内での農業生産物だけでは私達の食卓を賄いきれないのが現実となっています。

さらに日本の全山林の4割を超える約1千万haの面積に植えられた針葉樹は、価格の安い輸入木材の登場で伐採や間伐が行われなくなり、長年にわたる倒木や風雪被害によって山林は激しく荒れてしまい、自然災害の温床と化しています。

これらの問題を解決するために、この法人は、農山村地域の生活者に対しては野生動物との共生を実現しながら農山村地域の振興と自然環境の再生を促進する事業を行い、広く一般市民に対しては農林業の大切さと地産地消を拡大させる事業を行なうことで、農山村地域の活性化と食と生活の安全の確保に寄与することを目的とします。

こうした活動は、個人や企業などの垣根を越えて様々な地域のより多くの方々の知恵を結集することが求められ、自治体や公的機関との連携も重要になることを勘案して、会社法人や任意団体ではなく、特定非営利活動法人の法人格を取得することがよりよい活動形態であると考えました。

2. 申請に至るまでの経過

平成21年 8月 2日	群馬県片品村でホテル再生事業を開始
平成23年 1月15日	岡山県勝央町で農家と協働して農業体験事業を開始
平成25年 4月 8日	NPO設立検討委員会準備会
平成25年 4月25日	第1回 NPO設立検討委員会
平成25年 5月 9日	第2回 NPO設立検討委員会
平成25年10月23日	第3回 NPO設立検討委員会
平成25年10月29日	第4回 NPO設立検討委員会

ジビエの郷みまさかを視察

平成25年10月31日 第5回 NPO設立検討委員会
平成25年11月 5日 第6回 NPO設立検討委員会
平成25年11月12日 第7回 NPO設立検討委員会
平成25年11月16日 第8回 NPO設立検討委員会

平成25年11月18日

特定非営利活動法人 里山ルネサンス総合研究所

設立代表者 住 所 東京都練馬区東大泉5丁目1番7号

氏 名 畑 森 昭